

# 『資格を活かす力』は教室と教科書だけでは学べない “本物”に触れて実力を高めよう！

学びのネットワークは、本校が所属する新生グループです。新生グループが提案するのは、「日本の福祉のあるべき姿」です。この国際水準の福祉に触れ、グループ全体の共通理念「他人の痛みを我がことと感じる感性」を学びます。

ここ！  
サンビ品質

## あるべき福祉の姿を形に～4つの福祉モデル～

### 池田モデル

#### 尊厳を保障する地域のセーフティネット



▲常勤医師による安心サポート



#### 相手を理解することの本質を学んだ

介護福祉学科 13 期生 伊藤 彩

サンビレッジ新生苑でのふれあいタイムでは、重度の認知症の方と接することが多かったのですが、学生の私は「何も分からない人」と思い込んでしまっていました。しかし、職員の皆さんは普通に話しかけ、その方のそれまでの生活歴を大切に、何気ない一言にも工夫をしているようでした。今考えると、人として敬うということと繋がっているように感じます。授業で「尊厳を守る」ことを学んでいたからこそ、現場での体験がそのように感じられたのかもかもしれません。

社会福祉法人  
新生会  
<http://www.shinsei-kai.or.jp>

サンビ校

株式会社  
新生メディカル  
<http://www.shinsei-md.jp>

### 岐阜モデル

#### 医療・福祉・地域が一体となったトータルサポートシステム



#### 近未来の福祉現場で求められるSTの姿

言語聴覚学科 7 期生 肥後 航

サンビレッジ岐阜のデイサービスでは、コミュニケーション障害や、嚥下障害のある方に対して、週2回、言語聴覚士がサポートしています。私は、ことばにハンディのある方に対しての、個別と集団の訓練を見学することができました。訓練は障害のある方に対するものと思っておりましたが、本人へのサポートは勿論のこと、その家族やデイサービスのスタッフとの連携も、大切であることが分かりました。

### 大垣モデル

#### 住民が主体的に参加する地域ケア



#### 地域との一体感を味わえました

言語聴覚学科 7 期生 市川 季輝

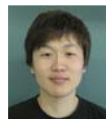
サンビレッジ大垣で4月に行われた「さくら祭り」にボランティアとして参加しました。一番驚いたのは子どもからお年寄りまで幅広い年齢の方が大勢いらっしゃったことでした。施設の行事というより地域のお祭りに参加した気分で一緒に楽しむことができ、自分の役割も忘れてしまうほどでした。地域の人々の役に立ちたいという思いが一層強くなりました。



NPO 法人  
校舎のない学校  
<http://www.fukusimura.jp>

### 坂内モデル

#### 伝統的な“絆”を活かした地域の活性化



#### 失ってはいけない大切なことの数々

作業療法学科 9 期生 高松 恭平

岐阜県西部の山合いの村、坂内での合宿を通して、生活が便利になる過程で失われている多くのことに気付くことができました。合宿では裏山から切り出した竹で箸を作ったり、ブルーシートで雨をしのいだり、川で行水をしたり…と、工夫次第で生活できることを学びました。又、村に徒歩で向かう道中で雷雨に見舞われたとき、村の方々が車数台で迎えに来ていただきました。クラスメイトと寝食を共にした体験と合わせて“人の絆”の大切さを強く感じるすることができました。